

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校番号	58
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	(1)「快活」「友愛」「創造」を校訓とし、心身ともに健やかで、より豊かな人間性と「生きる力」を備えた生徒の育成を目指す。 (2)社会への貢献や地域の発展に寄与できる人材を目指し、一般教養及び専門的知識や技術を身につけさせるとともに、創造性にあふれ明朗快活で心豊かな人間性を養う。	
2 評価する領域・分野	進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果から 「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。」(肯定評価の割合89%) 「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている。」(肯定評価の割合89%)	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)自己の在り方・生き方を考え、自己実現に向けて努力する態度を育てます。 (2)地域社会と緊密に連携したキャリア教育を進め、積極的に社会貢献できる人材を育てます。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・管理職および企画委員会を中心に、分掌や学年団との連携を大切にしてい、情報が共有できる組織体制	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1)個々の生徒の特性を的確に把握し、組織的な進路指導を行います。 (2)進路ガイダンス・ホームルーム活動を充実させ、適正な進路情報の提供に努めます。 (3)国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成に努めます。	(1)インターンシップ等の報告書および成果物(進路ノート)に対する評価。 (2)進路行事实施後のアンケートによる生徒の自己に対する評価。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・個々の生徒の特性を的確に把握できるよう担任団と連携し協力することができた。 ・進路ガイダンス・ホームルーム活動を充実させ適正な進路情報の提供をすることができた。 ・広い視野と資質を持った人材の育成はできたと思うが、国際社会に対応できているかは不安である。	①担任団と協力し、生徒の個々の特性を把握できたか。 ②進路ガイダンス・ホームルーム活動を充実させ適正な進路情報を提供することができたか。 ③国際社会に対応した、広い視野と資質をもった人材の育成ができたか。	Ⓐ B C D Ⓐ B C D A Ⓑ C D
11 成果・課題	○就職先、進学先のミスマッチが無いよう1年生のうちから進路先決定に向けたガイダンスや体験を計画的に実施することができた。 ○3年間の進路行事に対するポートフォリオとして「進路ノート」を活用し、事前学習や振り返りができた。 ▲外部講師によるガイダンスの講話内容の検討が必要である。	
12 来年度に向けての改善方策案	・平成30年度入学生が大学入試を受験するための対応が必要である。 ・外部講師によるガイダンスについては、毎年講話内容の検討を行い、より生徒に即した内容とすることや、事前指導の充実を図りたい。	

II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月26日

【意見・要望・評価等】

- ・就職では、福祉離れが懸念され、求人への応募は皆無に等しい。ぜひ、福祉の後継者を作ってほしい。また、地元で農業の求人を出してもなかなか応募がない。バックアップするので、ぜひ勧めてほしい。
- ・インターンシップを受け入れているが、生徒は真面目に活動してくれた。
- ・学習成果発表会では、地域産業に密着した発表が多く、好感が持てた。